

令和5年度の方向

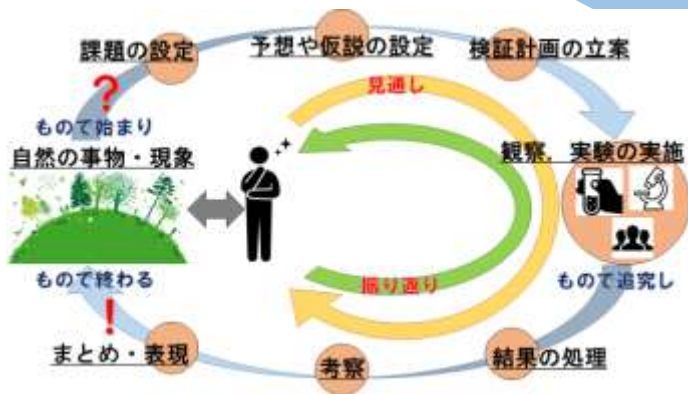
1. 令和4年度の実践を振り返って

令和4～6年度 岐阜県中学校理科研究部会 研究主題

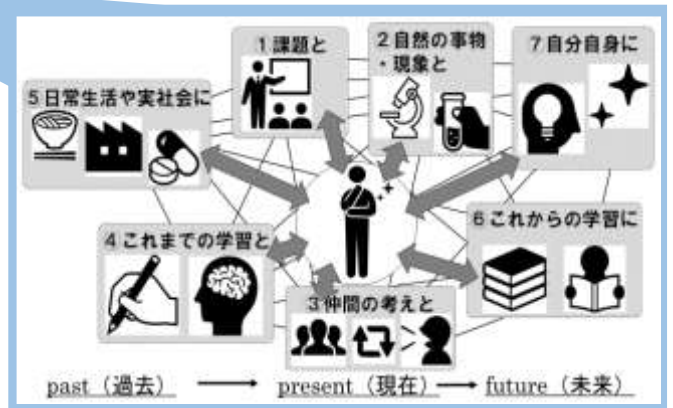
「理科の勉強が好き・楽しい」と実感できる理科指導 ～ “科学的な探究の過程” と “つなぐ指導” を通して～

主題の「理科の授業が好き」「理科は楽しい」と実感する生徒とは、理科の授業を通して、自然を科学することや疑問を追究し、解決することなど、理科の魅力や科学の面白さを実感する生徒のことである。また、副主題は下記に示すイメージを共有して実践を進めている。

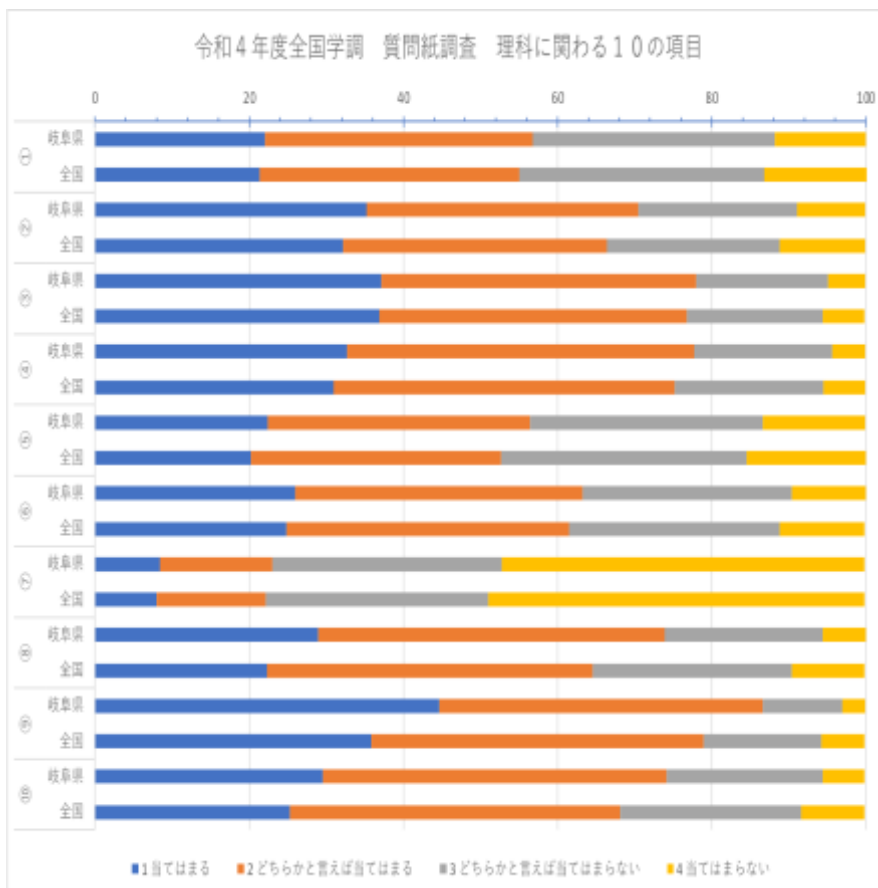
“科学的な探究の過程”



“つなぐ指導”



令和4年度に実施された全国学力・学習状況調査(質問紙調査)の理科と特に関わりのある10の質問の内容とその結果は、次の通りである。



- ① 自然の中で遊ぶことや自然観察をすることがありますか
- ② 理科の勉強は好きですか
- ③ 理科の勉強は大切だと思いますか
- ④ 理科の授業の内容はよく分かりますか
- ⑤ 理科の授業で学習したことを、普段の生活の中で活用できないか考えますか
- ⑥ 理科の授業で学習したことは、将来、社会に出たときに役に立つと思いますか
- ⑦ 将来、理科や科学技術に関係する職業に就きたいと思いますか
- ⑧ 理科の授業では、自分の予想をもとに観察や実験の計画を立てていますか
- ⑨ 理科の授業で、観察や実験の結果をもとに考察していますか
- ⑩ 理科の授業で、観察や実験の進め方や考え方が間違っていないかを振り返って考えていますか

全ての質問において、岐阜県は全国平均よりも肯定的な回答をする生徒が多い。また、平成30年度の調査結果と比べると、ほぼ全ての質問で肯定的な回答をする生徒の割合が上昇している（※質問①については、コロナウイルス感染症の影響により、全国的にも大幅な減少傾向となっている）。

岐阜県-全国比で優位な差（※ここでは+5%以上とする）が確認できるのは、質問⑧が+9.4%、質問⑨が+7.5%、質問⑩が+6.0%の3つの項目である。

また、平成30年度と比べて顕著な上昇（※ここでは+5%以上とする）が確認できるのは、質問⑩が+8.4%、質問⑤が+7.2%、質問③が+6.0%、質問⑥が+5.9%の4つの項目である。

全国学力・学習状況調査の結果から、岐阜県で理科を学ぶ全ての子どもたちのために、先生方と力を合わせて、取り組んできたこれまでの研究(科学的な探究の過程の中でつなぐ指導を意識して行うこと)について、一定の成果が得られていることが分かる。令和5年度は、この成果を生かし、より一層研究を充実させていきたいと考えている。

2. 令和5年度の重点について

研究主題を実現するために、令和5年度の指導の重点を次のように位置付ける。

<令和5年度の重点>

1. 「科学的な探究の過程」を、授業で一層充実させていくこと
→特に、1年生は問題を見いだす、2年生は解決方法を立案する、3年生は探究の過程を振り返る
2. 「つなぐ指導」を、科学的な探究の中で意識的に行うこと
→特に、つなぐ対象の内、⑤日常生活や実社会に ⑥これからの学習に ⑦自分自身に
3. 理科の勉強が好きではない生徒に丁寧な指導しきること
→令和4年度の全国学力・学習状況調査の結果より8.8%の生徒が「理科の勉強が好きではない」と答えている。(理科に対する苦手意識が強い・学習意欲が低いなどの原因が考えられる)

さらに、研究を進める際（授業づくり）の具体的な視点を、次のように位置付ける。

<教育課程>

- ・育成する資質・能力を捉え、学習内容の系統性・発展性や科学的な探究の過程を明らかにした指導計画の作成

<観察、実験>

- ・課題に正対した考察をするために必要となる確かな事実が得られる教材・教具の工夫

<学習・評価>

- ・生徒が、自ら学習課題を設定することができる導入の指導
- ・結果を図やグラフ・表などに整理して考察することができる指導
- ・日常生活や実社会への適用を意図し、理科の有用性を実感できる終末の指導
- ・自分自身の学びを自覚するための評価の工夫

<環境教育>

- ・地域の人的・物的資源を活用するなどして、自然環境の保全に寄与する態度を育てる指導

岐阜県中学校理科研究部会	研究委員長	：藤井 和光（岐阜市立岐北中学校）
	領域長（物理）	：岩崎 聡（岐阜市立本荘中学校）
	領域長（化学）	：陶山 俊輔（瑞穂市立穂積北中学校）
	領域長（生物）	：常川 真味（岐阜市立長森中学校）
	領域長（地学）	：河合 宏徳（大垣市立上石津中学校）